

会 議 録

1	会議名	第5期 第3回南砺市協働のまちづくり推進会議
2	議題	<p>(1) 基調講演</p> <p>1. 地域づくり協議会の取り組みについて 講師 南砺市地域づくり協議会連合会 会長 松本 久介 氏</p> <p>2. なんと未来支援センターの取り組みについて 講師 一般社団法人なんと未来支援センター 事務局長 定村 誠 氏</p> <p>3. 南砺幸せ未来基金の取り組みについて 講師 公益財団法人南砺幸せ未来基金 事務局長 浦井 啓子 氏</p> <p>(2) ワークショップ（グループディスカッション）</p>
3	開催日時	令和4年11月7日（火） 開会時間：午後5時／閉会時間：午後7時30分
4	開催場所	井波コミュニティプラザ「アスモ」 2階大会議室
5	出席者	<p>[委員：全20名] ※50音順、敬称略</p> <p>出席：荒木 信人、磯辺 文雄、江田 攻、長田 正勝、齊藤 優華、 坂本 博昭、佐竹 弘昭、嶋田 早苗、竹部 俊恵、塚八 栄治、 中山 明美、能登 貴史、長谷川 邦子、林 則雄、 松本 久介（講師）、南 眞司、藪 英雄、渡辺 洋子</p> <p>欠席：上坂 紀子、俵 圭子</p> <p>[市：出席3名]</p> <p>事務局 南砺で暮らしません課長 船藤 統嗣 南砺で暮らしません課 協働のまちづくり係長 山下 真人 " " 主事 得能 基史</p>
6	傍聴者	0名

林委員長より開会あいさつ

本日はお集まりいただきありがとうございます。第1回の推進会議では、まちづくり基本条例について過去に遡って研究することが提案され、第2回の推進会議では南砺市まちづくり基本条例の策定を担当された元市長政策室長の長澤さんに講演いただきました。今日は、実際にまちづくりに携わっていただいている方々にお集まりいただき、これまでの取り組みや苦労話についてお話いただくことになりました。

今後、推進会議で論議いただくテーマを検討するため、実際にまちづくりに取り組んでおられるお三方の講演を聞いた上で、審議いただければと思います。

(1) 基調講演

1. 地域づくり協議会の取り組みについて

講師 南砺市地域づくり協議会連合会

会長 松本 久介 氏

2. なんと未来支援センターの取り組みについて

講師 一般社団法人なんと未来支援センター

事務局長 定村 誠 氏

3. 南砺幸せ未来基金の取り組みについて

講師 公益財団法人南砺幸せ未来基金

事務局長 浦井 啓子 氏

(2) ワークショップ (グループディスカッション)

事務局より説明

・話題提供 「これまでの提言と市の対応について」

グループディスカッション

・5つのグループにてテーマについて議論

・テーマ

①講演を聞いた感想

②質問したいこと

③今後の推進会議で議論したいこと

Aグループ

・子どものいない町内の困りごとについての話があった。集落ではなく地域づくり協議会単位での取り組みが大切だと感じた。

・通所型サービスBの取り組みがどうすれば広がるのかという議論があった。

・推進会議では、これからのまちづくりをどう進めるかということ議論したい。

松本会長のコメント

左義長や地蔵祭りなどの伝統的な行事を続けることが難しいという現状なので、地域づくり協議会で、一箇所ですべてやるという呼びかけを

7 会議録

しないといけない段階にきていると思う。蓑谷地域では、小学校と連携して獅子舞を復活させた地域がある。

通所型サービスBに取り組んでいると、高齢者が要介護に進みにくくなる。非常に効果が高いと実感しているので、これからも多くの協議会が取り入れるよう推進していくことが必要である。

Bグループ

- ・松本会長の講演の中で、「ここ5年間で勝負」との言葉があり、5年という時間の捉え方について話し合った。
- ・定年の引き上げもあり、集落の営農組合への影響も懸念されている。
- ・「つながりの空洞化」についても話し合った。いろいろな外部的要因もあるが、社会が経済合理性に傾きすぎたことで、家庭の中で育てるべき大切なものが育たなかったことが原因になっているのではないか。
- ・子どもが都会に行っても、家庭での教育がしっかりしていれば郷土への思いを持ち続けてくれるので問題はないのではないか。

Cグループ

- ・南砺市の人口が減ってしまっている現状を変えるには、人が来る仕組みや魅力を作らなければならない。
- ・具体的には企業誘致、地域間の協力など様々な解決策があるが、一番大切なことは、「地域への無関心」を解決することである。
- ・小さいことでも大きなことでも、とにかく行動することが大切である。行動を起こしたい市民を支えるために、発表いただいた方々（地域づくり協議会、なんと未来支援センター、南砺幸せ未来基金）がサポートしてくれる体制が整っている。

Dグループ

- ・地域づくりは役場の仕事という意識の地域がある。
- ・これからは地域づくり協議会が地域課題の解決に向けて取り組んでいくという意識改革をしなければならない。
- ・地域のことは地域で考えるという体制にしていかなければならない。
- ・資金をもらうのではなく、資金を獲得しに行くという意識に変えていくべきだと思うので、情報の公開と情報の収集どちらも大切である。
- ・無関心を解消するため、まずは我々推進会議が意識をもって、変わっていかなければならないと思う。

Eグループ

- ・小さなことでも量の変化が質の変化にという言葉が心に残った。
- ・現実として町内での人手が不足し、各種委員を出すことも難しいし、空き家などの課題もある。
- ・グループでの結論としては、教育現場への働きかけに注力することが大切だと提案された。

松本会長のコメント

団塊の世代が後期高齢者になる時期に対して危機感を持っている。我々の子ども世代は地域のことや家のことに関心がなかったわけではなく、我々が適切に教えてこなかったから理解していなかったということに最近気づいた。大きなことはいきなりできないが、それぞれできる人が小さくとも何か始めていくことが大切である。

定村事務局長のコメント

ある地域づくり協議会から、当センターへ相談があった。小学校では合併前の旧町のことを教えることがあっても、それぞれの協議会単位としての地域の特色を学ぶ機会はない。彼らを学校から地域へ返してほしいのだ

が、どこへ相談すればいいのか、という相談だった。とりあえず校長先生へ話してみてもどうかと提案した。その後どのような話になったのかはわからないが、大切な話だと感じたので共有させていただいた。

浦井事務局長のコメント

我々の活動がまだまだ知られていないということをいつも痛感している。名前を知ってもらっただけでなく、どんな活動をしているのか、何ができる組織なのかを理解いただくことが大切だと感じた。

「うちに来て、ちょっこしゃべってま。」という提案も大歓迎なので、ぜひお声がけください。

齊藤副委員長より閉会あいさつ

委員の皆様、先生方、ありがとうございました。地域づくり協議会が立ち上がって、地域づくり協議会の困りごと解決をサポートするなんと未来支援センターがあって、資金的支援を行う南砺幸せ未来基金ができ、地域づくりを支援する大きな箱ができているいい流れがあると感じた。一人ひとりが動ける魅力的なまち、一番の課題である無関心の解決のため、これらをよくするにはどうすればいいのだろうということを改めて考えさせられた。

長い時間をかけてできてしまった課題を解決することは簡単ではないが、これからどのように変わっていけばいいのか、取り組んでいけばいいのかということをお皆さまと一緒に考えていきたいと思う。